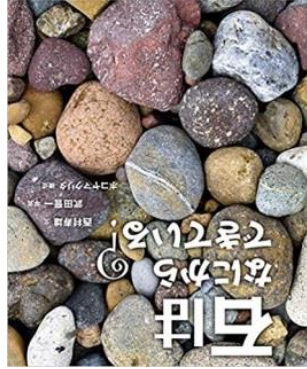


火山のマグマがひえると、  
 白や黒、赤などのキラキラし  
 たつぶが光って見える石に  
 なります。川から流れてきた  
 砂は、海のそこにつもると、  
 さらさらした、しまもようの  
 石になります。色や手ざわり  
 のちがいが、石がどのよう  
 にして生まれたのかわかり  
 ます。

『石はなにからできている？』  
 K458  
 西村寿雄／文 武田晋一／写真  
 岩崎書店



クララさんは、ねこの町で  
 子どものための本屋さんを  
 ひらきました。でも、おきや  
 くさんがこなく、しまんぼ  
 り。  
 夫の村にあるゆうやけ図  
 書館では、子どもたちが本に  
 むちゆうだときいて、たずね  
 てみることにします。

『ねこの町の本屋さん』  
 K913  
 小手鞠るい／作 くまあやこ／絵  
 講談社



『すきま地蔵』  
 えほん



室井滋／文  
 長谷川義史／絵  
 白泉社

『カテリネッラとおにのフライパン』  
 K973  
 イタリアのおいしい話』

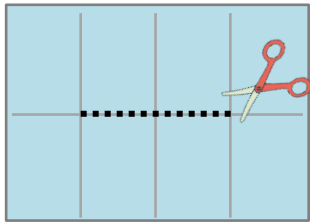


剣持弘子／訳・再話  
 剣持晶子／絵  
 こぐま社

かさじぞうの子孫として、町の  
 人をたすけてきたおじぞうさん  
 一家。町のたてものがふえて、ビ  
 ルのすきまから出られなくな  
 りました。学校の帰り道、ボクは  
 おじぞうさん一家によびとめられ、  
 「かわりに町をみまわってほし  
 い」とたのまれました。

カテリネッラは、おにからフ  
 ライパンをかりました。ところ  
 が、おれいにとどけるはずだ  
 ったドーナツをぜんぶ食べてし  
 まいます。

こまったカテリネッラは、フ  
 ライパンに馬のふんを入れて  
 かえずことにしました。



紙を8つにおいて、半分にひろげて  
 ね。てん線のところに、ハサミで、  
 きりこみをいれて、くみたてれば、  
 本のかたちになるよ！

編集・発行 富山市立図書館

富山市西町5番1号

電話 076-461-3200

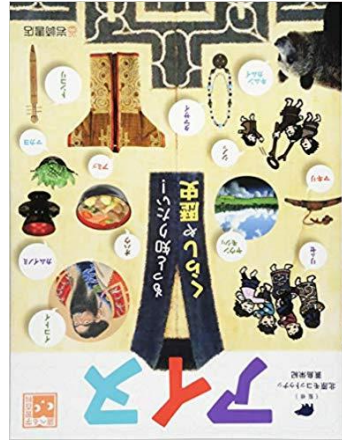
としょかんのホームページもみてね！



2018年  
 12月号



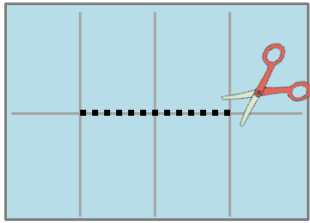
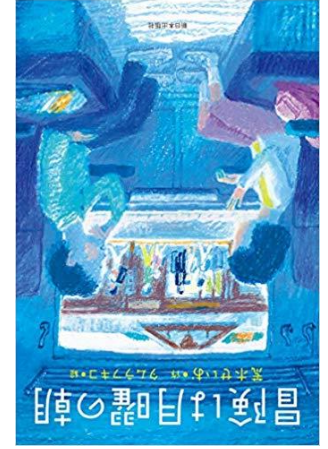
日本に住んでいるのは、日本人だけではありません。北海道や樺太、千島列島などには、昔からアイヌ民族が住んでいました。そのアイヌには、ししゅうのある着物や日本語とはちがうひびきの言葉など、独自の文化があります。かわいた広い川という意味のサッポロペツに漢字をあてはめた札幌など、アイヌ語が元になった地名は今も残っています。



K382 『アイヌ』  
 もっと知りたい！くらしや歴史』  
 北原モコツトウナシ／監修  
 養島栄紀／監修 岩崎書店

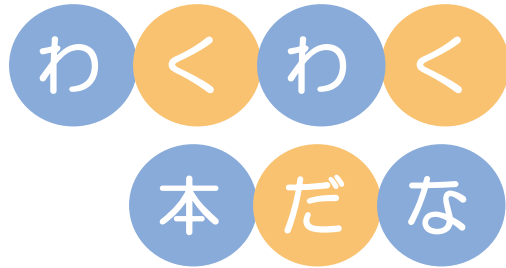
学校が代休の月曜日。6年生の風花は、鉄道好きのクラスメイト・賛晴と、小淵沢行きのお列車に乗りました。旅の目的は、風花のおばさんへ応援するために会いに行くこと。おばさんは結婚せずにに赤ちゃんを産んだばかりなので、親にだまって家を出てきた二人は、平日に子どもだけでいてもあやしまらないように、兄妹のふりをします。

K913  
 『冒険は月曜の朝』  
 荒木せいお／作 タムラコキコ／絵  
 新日本出版社

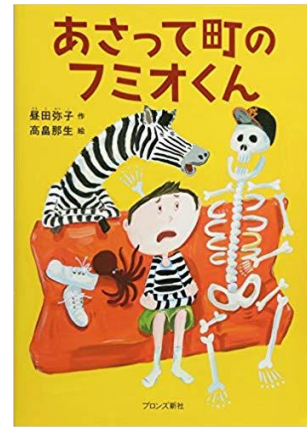


紙を8つにおって、半分にひろげてね。てん線のところに、ハサミで、きりこみをいれて、くみたてれば、本のかたちになるよ！

編集・発行 富山市立図書館  
 富山市西町5番1号  
 電話 076-461-3200  
 としょかんのホームページもみてね！



2018年  
 12月号



K913  
 『あさって町のフミオくん』  
 昼田弥子／作 高島那生／絵  
 ブロンズ新社

フミオは、公園でシマウマに出会いました。白と黒のよこじまもようの服を着ていたの、シマウマの子ども〈シマオ〉にまちがえられ、家につれていかれます。

すきをみてにげだしますが、今度はウシの子ども〈ウシオ〉とまちがえられてしまいます。ウシと話しているうちに、フミオは自分がだれなのかわからなくなってきました。